

## 7 冬穫りレタスのボリュームアップ

### ねらいと成果

淡路のレタス栽培は、作付け面積が1,200haを越え年々増加を続けている。しかし、当地の冬穫りレタスは他産地に比べてボリューム不足傾向が著しく、市場評価が劣るため栽培法の改善が求められている。そこで、改善策を検討し以下のような成果を得た。

マルチ被覆により、結球の肥大が促進された上に施肥量が無マルチ栽培の2/3に軽減できた。また、植付け様式では3条植えに比べ、2条植えで生育が均一となり球の肥大が促進された。播種時期は「サントス2号」では9月20日、「ロジック」では9月25日が良く、トンネル被覆は11月15日開始の裾換気で球の形状が良好となり、肥大も十分であった。

### 内容

#### 1 マルチ被覆

2月穫り栽培では、無マルチ栽培に比べてマルチ栽培で結球重が大きくなった。また、マルチ栽培は肥料の流亡が抑えられるため、無マルチ栽培の窒素施肥量30kg/10aより、マルチ栽培の窒素量20kg/10aで球の肥大が優れ、施肥量を2/3に軽減できた(図1)。

#### 2 植付け様式(条数)

上記と同様の作付け時期で、2条植え(株間27cm、条間33cm、栽植密度5,700株/10a)と3条植え(株間33cm、条間27cm、栽植密度6,700株/10a)についてみると、2条植えでは東・西いずれの条も生育が揃って球の肥大が優れたが、3条植えでは、中央の条に比べて両端の条では生育・球の肥大が劣り、

収穫も遅れた。このため、2条植えの方が、栽植密度は低くても、出荷時に1箱当たりの球数が少ない大玉の比率が高くなり、冬期は大玉ほど単価も高く、収穫労力まで考慮すると有利になる(図2)。

#### 3 播種時期、トンネル被覆時期・方法

慣行品種の「サントス2号」(フジイシード)は、9月20日から30日までの5日間隔の播種では、播種時期が早いほど球の肥大が良く、トンネル被覆開始は12月5日に比べ11月15日で肥大が優れた。被覆方法は、全閉では中肋の突出など球の形状が乱れ、裾換気の秀品率が高かった(図3)。なお、ビッグベイン耐病性の「ロジック」(横浜植木)は、草勢が強く、球の形状が乱れやすいため、播種時期は9月25日に遅らせた方が商品化率が高くなった。

#### 普及上の注意事項

- 1 1~2月穫り栽培では結球開始期からべた掛け資材の併用が収量・品質の向上につながる。
- 2 トンネルの被覆方法については、冬期の寒さが厳しい場合は、12月中旬以降は全閉し球肥大の促進を図る。

小林 尚司(淡路農技・農業部)

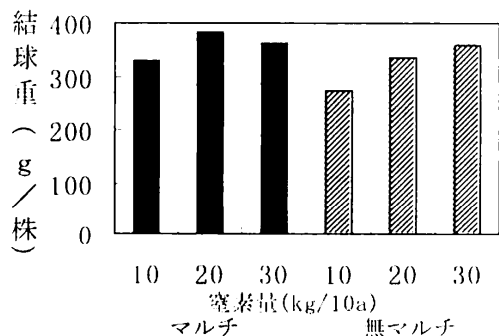


図1 マルチの有無・施肥量

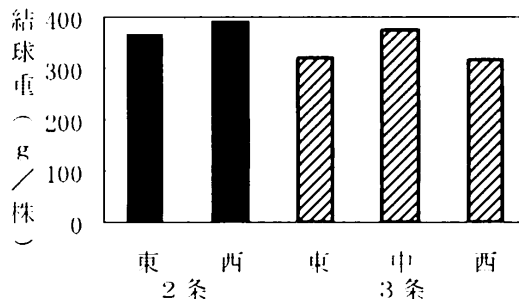


図2 植付け様式(条数)の違い

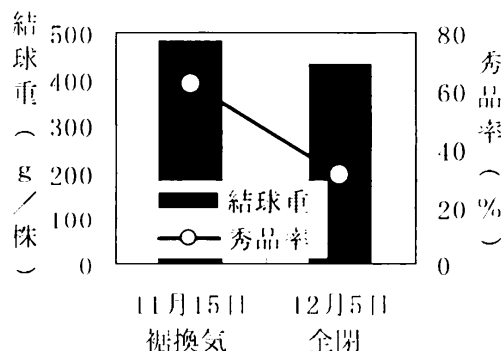


図3 トンネル開始時期・方法(「サントス2号」)